

令和 5 年度 香南市立幼稚園における学校評価報告書

香南市立香我美幼稚園

経営理念		【教育目標】 みかんの里の げんきつ子					
		【経営目標】 『幼稚園における生活の全体から、豊かな体験を通して生きる力の基礎が身につく幼稚園』をめざす					
		〈子ども像〉 ○のびのびと明るく元気な子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども ○友達と心を通わせ思いやりのある子ども ○自分なりに表現する子ども ○最後までやり通す子ども					
		〈幼稚園像〉 ○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園 ○友達とつながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○身近な自然に親しみ豊かな心情や創造力を育む幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園					
		〈教師像〉 ○子どもに寄り添い深い信頼感や安心感を育む教師 ○楽しい教育活動を工夫する教師 ○環境や人とのかかわりが広がるよう工夫する教師 ○互いに協力してチャレンジする教師 ○人間性豊かで指導力の向上に努める教師					
今年度の重点目標		評価項目	自 己 評 価		学 校 関 係 者 評 価		改善策等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
保育・教育活動の充実	幼稚園教育要領の内容に沿った教育活動と、園児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育てる。	発達や特性を理解し、心に寄り添った教育・保育	子ども一人一人に応じた保育を目指したことで、子どもの意欲や挑戦しようとする気持ちが育ってきた。しかし、発達を見極めることや、一人一人のことを踏まえながら全体の環境を整えることが難しく、今後も研鑽を積む必要がある。	C	一つ一つのことに注意深く取り組んでおり、1・2学期は落ち着かない様子だった子どもも3学期には落ち着いていたように思う。結果を求めたCだと思うが、努力はBに相当する。	B	公開保育や事例研などの研修を通して、発達や特性の理解を深めていく。すぐに成果が出ることではないが、職員一人一人の経験に合わせて、着実に力をつけることができるようにする。
		ねらいに基づいた環境設定と援助	保育のねらいを意識して遊びを用意することや、自分の関わりに悩んだ時は、ねらいに立ち返り、振り返りを行ったことで、ねらいの達成につながった。今年度の研究の中で学んだ主体性についても意識して保育を行い、子ども同士で遊びや生活を進める姿も見られるようになった。	B	日々の記録の中でねらいを意識したり、職員間でも話ができている。子どもの自身の気付きや成長も見られている。	B	子ども理解を深め、子どもの興味関心に添ったねらいの設定についても学ぶことができるよう、積極的に研修に参加し、職員間で学び合う機会をつくっていく。
		道徳性の芽生えと規範意識の育成	発達に応じて教師が適切に関わり、子ども達は思いを言葉で伝えることや、葛藤やつまづきの経験を経て折り合いを付けることができるようになった。仲介の場面では、教師が子どもの言葉を遮っていたことの気づきもあった。学級全体で考える場を設けたことで、子ども同士で声をかけ合ったり、解決に向けて話し合ったりする姿も見られた。	B	保護者の立場では子どもの姿から成果が目に見えて分かり、アンケート結果でも取り組んだ成果が見えた。建設的な子ども同士のやりとりも見られており、今後にさらに期待する。	A	道徳性の芽生えの基本は生活習慣の形成である。生活習慣が着実に身に着くよう、年齢ごとで身に付けたい力を確認する。また規範意識については、具体的な場面を捉えて家庭への啓発を行い、生活習慣とともに、家庭と共に取り組んでいくことができるようにする。
職員の育成・資質向上や運営	園務分掌が適正に機能し、子どもたちのために教職員がお互いに協働する風通しのよい幼稚園を構築する。	職員の主体性を育むチームワーク	大きく職員が異動したことによる互いの遠慮や、自身の多忙感があり、細やかにコミュニケーションが取れない時もあったが、保育や行事の準備などは協力しながら進めることができた。職員間の雰囲気もよく相談ができ、安心感を持って仕事にあたることができた。	B	職員が半数変わると1からのスタートだったと思う。職員の欠員は1名であっても多忙につながったのではないか。その中でも工夫をしながら職務をこなしてきた。	B	今年度のつながりを土台として、職員一人一人が主体性を発揮しながら教育・保育を進めていくことができるような職員間の信頼関係の構築と個人のスキルアップを目指していく。
		計画的で互恵性のある保幼小連携	保幼小交流ではカリキュラム会で意見交換を行い、互いの保育・教育内容の確かめや、運動会や縄体操などは、ねらいをもった交流活動ができた。幼小の交流では事前事後の話し合いをしたことで小学校の取り組みや大切にしていることがわかった。年長児は小学生との交流を通して、憧れや今後の生活への見通しを持つ事ができ、小学校の先生の明確で端的な指導が職員の学びにつながったが、園側からの働きかけができなかった。	C	保幼小は隣接しており環境に恵まれている。小学校の運動場をもっと活用してもらっていい。小学校としても体験入学を通して上級生としての意識を高める良い経験になった。職員の職場体験など、色々な形で交流ができたことも成果となった。保幼小では今後もカリキュラム会を通して発達に見通しをもって生活や遊びのなかでの経験を話し合っていきたい。	B	交流活動のねらいをもって各機関との職員同士、子ども同士それぞれに互恵性のある交流を行い、連携が深まるよう努めていく。保育所・小学校からの提案を待つだけでなく、子どもの育ちのために必要なことを考えたり、子どもからの発信を捉えたりしながら、積極的に交流を働きかけていくようにする。
地域に開かれた園づくり	保護者に信頼を得ることや地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を目指す。	保護者に信頼される幼稚園	保護者とのコミュニケーションをもとに信頼関係を築くことを目標としてきた。忙しい時期や、迎える時間によっては保護者と関わるのが難しかったり、担任から話があるときは悪い報告が多いと捉えている保護者もいた。伝え方には課題が残った。行事では人数の制限なく、子どもや年齢ごとの発達を見てもらうことができ、保護者アンケートによる満足度は高く概ね良い評価をいただいた。	A	お便りや掲示板の写真では、行事を楽しめている様子が分かりとてもありがたかった。保護者の立場からすると、悪いことも知らせて欲しいし、事によっては相手に謝りたい場合もある。良いことも知らせてもらって気にかけてくれていることを感じ、風通しがよかった。異動で変化がある時は大変だと思うが、アンケートの保護者満足度も高い。	A	日頃の子どもの良さや認め の言葉を保護者に伝えることで信頼関係を築くとともに、課題の伝え方については、子どもの姿と共に教師の願いや関わりを含めて話すなど、工夫を行っていく。ドキュメント表示やすぐーるなども活用しながら、引き続き保護者の安心につながる幼稚園運営に努めたい。
		地域や保護者の力を生かす幼稚園	保護者の力を活かしたお月見演奏会は100名を超す親子の参加があった。また、ふれあいデーなど新しい取り組みもあり、保護者や地域に協力していただくことができたが、尽力していただいたことを一人一人の職員が意識して、他の保護者に広く周知することが不十分であった。職員が地域のことをあまり知らないままに保育をしてきたので、地域の力をいかし共に活動する場が増えるような働きかけができなかった。	C	お月見会は、子どもも大人も楽しめ特別な行事となった。また夕暮れ時の園舎のライトアップも、地域からは大変好評で、地域への貢献をしている。今年度、様々なことを実現してきた背景には、園が地域や保護者との関係づくりをしてきたことが伺えた。一方で、地域に転入してきた人が入りにくい実態も見受けられた。一部だけでなく、保護者の力を活かしながら、今後も保護者や地域とのコミュニケーションを図ってほしい。	B	企画時からPTAを巻き込んだり、PTA活動などや行事を通して保護者同士をつなぐための取り組みを行っていく。また地域の人や行事に関心を寄せたり、情報を集めたりして、職員が地域のことを知り、組織全体で計画的に地域の方との交流を図っていく。

【評価基準】 A－(十分満足) B－(おおむね満足) C－(もう少し努力すべき) D－(大いに努力が必要)